

平成24年9月6日

美里町議会

議長 相澤 清一 殿

教育、民生常任委員会

委員長 我妻 薫

教育、民生常任委員会委員派遣報告書

本常任委員会は、所管事務調査を終了したので、委員会規則第22条の規定により下記のとおり報告する。

記

1. 調査年月日 平成24年7月18日(水)～20日(金)
2. 調査視察地 島根県邑南町
3. 参加委員 我妻 薫、平吹俊雄、山岸三男、赤坂芳則
千葉一男、福田淑子、吉田眞悦
4. 調査事項 少子化対策について

所管事務調査研修報告

邑南町の「日本一の子育て村を目指して」

「目的」

高齢化、少子化の傾向が本町でも進んでいる中、邑南町における「少子化対策」「子育て支援」「定住化促進」等の諸施策が統一的に取り組まれていることの研修。

「概要」

1、邑南町の概況

島根県の中南部に位置し、中国山地の 1,000 ㍍級の急峻な地形も含む中山間地。平成 16 年 10 月 1 日に石見町、羽須美村、瑞穂町の 3 町村の合併により誕生。

平成 17 年国勢調査の 4,636 世帯、12,944 人から平成 22 年の国政調査速報値では 4,430 世帯、11,966 人に減少している。

2、視察・研修の概要

1) 少子化対策、子育て支援について

病院との連携（元気ネット）

ケーブルテレビに 93%が加入している状況を活用し、「セコム」のシステムを採用して自治体の保有する情報と住民の生活情報を一元管理し、住民に提供するとともに医療機関での閲覧も可能にしている。

横の連携が課題であったことから、「データの一括管理」をめざし、住民は自分で健康データも入力ができ、公立病院の画像情報もかかりつけ医で活用できるなど、保健と医療の連携が強められている。

現会員数は 1,405 人で利用者拡大に向けて説明会や入力支援などが取り組まれている。

一般不妊治療費助成（上限年額 15 万円を 3 年間）

平成 23 年度から助成開始。助成件数は 4 件のうち 2 件が妊娠、1 件は継続、1 件は特定診療となっている。

口に出すこともはばかれる状況から市民権が得られてきている、という成果もある。

予防歯科費用助成（フッ素塗布、フッ素洗口）

2 歳から 3 歳 6 ヶ月にフッ素塗布、4 歳児から中学生までにフッ素洗口の費用全額補助、各施設で継続的な予防歯科の取り組みが行われている。高校生へのミニ歯科講話を含め、歯科衛生士を中心に歯科健康教育が強め

られている。

妊婦歯科検診

妊婦の口腔は激変し、子供も7ヶ月で歯の芽ができてくるなど、成人・子の歯科予防につなぐために妊婦歯科検診費用を全額助成し、産婦人科とも連携を強め受診率を高めるとともに、23年度からは町外の歯科医での検診も対象にしている。

病児事業

病気療養中または病気の回復期に、専用スペースで保育や看護ケアを行う保育サービスを邑智病院他2カ所で行われている。

障害児保育

保育料は第2子目からは全額無料で、心身に障害を持つ子供も全保育所で受け入れられている。



邑南町役場での研修のようす

2) 定住化促進施策について

無料職業紹介所の設置

ハローワークの事業縮小を受けて、担当が責任者講習を受け19年度途中から事業を開始。

職業安定法第33条の4を根拠に事業を行っている。定住支援員と連携をとり相談業務等を行っている

23年度実績 相談108、紹介125、就職94

定住相談とフォロー

県の交付金事業を活用し、コーディネーター(臨時職員)を配置。窓口でのたらい回しにならないよう、就職、空き家等々のコーディネートを行

っている。定住後のフォローも行っている。

公立病院、社会福祉法人への就労支援と奨学金制度

邑南町の医療福祉従事者を確保し、地域医療福祉の充実に資する人材を育成することを目的に、奨学金制度を実施している。

免許・資格取得後邑南町に居住しその資格を生かした業務に従事する期間が貸与期間以上になった時、償還が全額免除される。

農林業後継者育成奨学金

町内農業後継者の就学支援として奨学金制度。(月5~6万円)

町内で自立した場合は全額償還免除、法人の場合は半額が免除される。

空き家の改修補助と空き家情報活用

町の「空き家情報活用制度」に登録された物件に付き、U・Iターンを目的に空き家を改修する場合の補助金制度。上限は100万円(工事費の二分の一)が支給される。

現在登録件数は38件、成約はこれまで7件。

3) 公立邑智病院について

医療との連携、病児事業について、公立邑智病院の視察研修も行った。

公立邑智病院の概要

邑南町、川本町、美郷町の3町による一部事務組合が設置。

診療科：9科(内科、外科、泌尿器科、産婦人科、小児科、麻酔科、整形外科、精神科、歯科)

常勤医師10名、病床数：98床(急性期一般)

掲げている「果たすべき役割」

- ・急性期、救急告示病院として、地域の急性期医療ニーズの概ね80%を完結。
- ・高度先進医療や救命救急医療等特殊な分野の窓口。
- ・検診機能の充実。
- ・小児、周産期、救急、災害医療。

「身の丈にあった診療」

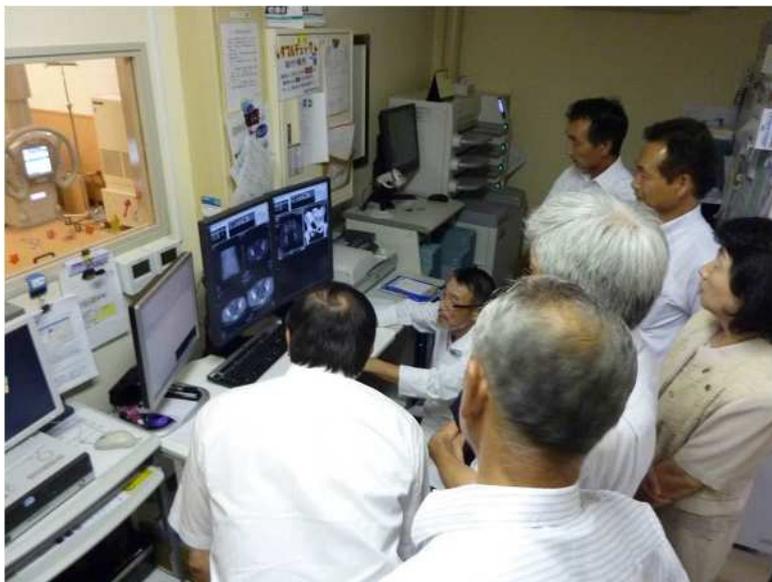
医師は専門の「科」を超えた相互連携・相互支援で診療等にあたるが、「身の丈にあった診療」を信条に、できない部分については他の医療機関や救命センター、大学病院などとの連携で対応している。ドクターヘリが発着できるヘリポートの設置もその一つといえる。

病児保育

地域連携室が管理運営する病児保育室「コスモス」は医療機関併設型

病児保育室で、専任の看護師・保育士が病初期段階から子供を預かる施設となっている。

定員は1日3名。対象疾患は麻しん、流行性角結膜炎等を除く通常の外来で治療可能な病気。対象年齢は生後6ヶ月から小学校3年生まで。利用料は1日2,000円、半日1,000円。



公立邑智病院の高度医療機器

「意見」

1) 事前検討の中であらかじめまとめて調査依頼した内容を中心に報告したが、総合的に特徴点をまとめると以下の点があげられる。

定住促進課を中心に各施策が総合的に関連づけられている。

公立病院との連携も含めて、歯科も含めた母性を保護する意識が強く、出産・子育てへの支援、保健と医療との関連も重視されている。

財源の柱には過疎債を当てているが、過疎法の見直しを考えて、年5,000万円程度の「基金」を準備するなどの対策を行っている。

2) 自然環境や充当できる財源などとりまく条件に違いはあるが、子供を産み育て、健康に成長した後に地元で貢献する人材を多く輩出することは自治体共通の目的といえる。

医療・保健・福祉・教育・生活・環境など様々な面において総合的に取り組む姿勢は学ぶところが大きい。

本町においても、医療や保健などの現状を分析し、現在ある資産の有効活用と足らざるものの補充をどうするか、各施策の連携のあり方を見つめ直し、横の連携をどう強めて行くべきかなど検証しながら、邑南町の施策を参考にできるところから取り入れていくべきと考える。